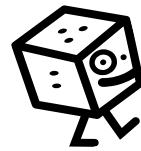


発行日：

2024年3月16日

明治学院大学心理学部 白金心理学会報

# さいころ



第16号

## 2023-2024

### 白金心理学会イベント

- 2023年6月11日  
白金心理学会第16回大会：総会、2022年度奨励費獲得者研究成果報告、学部シンポジウム開催
- 2023年7月1日  
学生会教育発達学科SC春学期新入生交流会
- 2023年7月12日  
学生会心理学科SC相談会
- 2023年11月10日  
学生会大学院SC「Let's Talk To 大学院生！」
- 2023年12月2日  
学生会教育発達学科SC秋学期新入生交流会

## 会報第16号発行に寄せて

野末 武義先生(心理学部長)

私たちが新型コロナウイルスに翻弄されるようになって、もう4年以上が経過しました。この間、何度かの感染拡大と収束を経験しながらも、社会的な機能は徐々に回復してきたように思われます。大学での授業も、オンラインのみの対応から、現在では100%対面で授業が実施できるようになりました。学外における教育実習や臨床実習も、直接現場に赴いての学びが可能になり、充実した学習環境が整ってきました。ここに至るまでの学生の皆さんや保証人の皆様のご心配ご苦勞は、計り知れないものだったと思います。一方で教職員も、今何をすべきか、何が現実的に可能か、将来をどのように見据えたら良いか等、様々な事柄について議論に議論を重ねる日々でした。心理学部に関わる全ての人たちの支え合いが、今に繋がっているのだと思います。

一方で、世界ではウクライナとロシアの戦争やイスラエルとパレスチナの戦争など、人々が安心して暮らすことが出来ない深刻な状況が

広がっています。また、昨今の異常気象による災害の頻発や元旦の能登半島大震災のように、自然の脅威に不安を感じることも増えてきました。さらに、ますます加速化する少子高齢化や、高度なAI技術の普及によって、社会全体が急速に大きく変化しようとしています。その中で、子どもからお年寄りまで、メンタルヘルスの問題は国民全体の問題にもなっています。心理学部の教育理念は「こころを探り、人を支える」です。不安と困難に満ちた社会を生き抜いていくためにますます重要なことであり、心理学部で学んだことを自分自身の生活の中で活かし、また社会に還元していくことが求められていると思います。



野末 武義先生

## 目次：

会報第16号発行に寄せて	1
白金心理学会第17回大会・心理学部開設20周年記念および心理臨床センター20周年記念行事のご案内	1
第16回大会報告	2
研究奨励事業報告	2
学部シンポジウム「With コロナ社会でのこころと学び」	3
心理学部の思い出	4
新任教員のご紹介	5
学生会SC活動報告	5
住所変更フォームが変わりました	6
事務局よりお知らせ	6

## 白金心理学会第17回大会・心理学部開設20周年記念および心理臨床センター20周年記念行事のご案内

野末 武義先生(心理学部長)

2024年度の白金心理学会第17回大会は、心理学部開設20周年記念および心理臨床センター20周年記念と共催という形で実施します。10月27日(日)に白金キャンパスで対面実施の予定です。午前中には、白金心理学会総会と研究奨励費獲得者による研究成果報告を行います。学部生・大学院生が、自分たちで研究テーマを設定し成果をまとめて発表するもので、年々そのレベルも高くなっています。また、昼にはランチ懇親会を予定しています。現職の先生方はもちろんのこと、退職された先生方にもご参加いただき、親睦を深

める機会にしたいと思っています。午後には、教員と在学生や卒業生・修了生による心理学部シンポジウムや、心理臨床センターの講演等も検討中です。

白金心理学会は、学部内学会であると同時に、在学生、卒業生、修了生、教職員によって構成される同窓組織でもあります。心理学部開設20周年という節目を迎え、これまでの心理学部の歩みを大切にしながら、今後のさらなる発展の機会となるような、充実した集いにしたいと思っています。多くの皆様のご参加をお待ちしています。



大会の様子

白金心理学会第16回大会が、2023年6月11日(日)に開催されました。今年度大会は、2019年度以来の対面形式での開催となりました。

大会当日には、学部生、大学院生、卒業生、教職員合わせて、54名の方々にご参加いただき、総会、2022年度研究奨励費獲得者による研究成果報告、そして学部シンポジウムを開催することができました。

総会では、2022年度事業報告、決算報告および会計監査報告、2023年度の事業計画案および予算案が報告されました。いずれも滞りなく承認されました。次に、2022年度研究奨励費獲得者による研究成果報告では3件の報告が行われました。続いて、「withコロナ社会でのこころと学び」と題した学部シンポジウムを開催しました。心理学科からは川端一光先生、教育発達学科からは辻宏子先生を指定討論者としてお迎えし、学生シンポ

ジストとして、心理学科の白石菜々さん、豊原駿介さん、教育発達学科の牛尾一翔さん、菊地滉大さんに話題提供をしていただきました。指定討論者、シンポジストそれぞれの立場から、これまでのコロナ禍での経験をふまえて、コロナ後の社会、とりわけ大学教育や学校教育現場にどのように活かしていけるか、変革することができるかといった闊達な議論が展開されました。

研究成果報告、シンポジウムともに、登壇者のみならずフロアの参加者同士の交流や意見交換が活発におこなわれていた点が印象的でした。こうした点もふまえ、次年度以降もwithコロナ社会における大会の在り方が模索できれば何よりです。この度は大会にご参加くださり、誠にありがとうございました。



## 研究奨励事業報告

白金心理学会第16回大会では、2022年度研究奨励事業における3件の研究奨励費獲得者の研究成果報告が行われました(タイトルは発表時、所属は採択時の情報)。

(1)「日本における定住難民2世の心理社会的適応について—自我アイデンティティ再体制化の観点から—」佐藤菜月(心理学専攻博士前期課程臨床心理学コース)、推薦教員：西園マーハ文教授

(2)「マスク着用行動に関連する要因の検討—年代と性別の観点から—」笹川萌々子(他3名)(心理学科)、推薦教員：金城光教授

(3)「医療・療育機関による学校支援と発達障害に関する校内支援の関係について」小出徳(教育発達学専攻)、推薦教員：小林潤一郎教授

今年度は2019年度以来の対面での実施となり、参加者との質疑応答も活発に行われ、大変充実した成果報告会となりました。発表の抄録は白金心理学会HPに掲載しておりますので、是非ご覧ください。

また、2023年度研究奨励事業には研究奨励費の枠に5件の応募があり、下記5件が採択となりました。白金心理学会第17回大会にて成果報告を頂く予定です。

(1)「家族を介護し看取った遺族の精神的

萩野谷 俊平 先生(心理学科専任講師)

健康度」大出結喜(心理学専攻博士前期課程臨床心理学コース)、推薦教員：西園マーハ文教授

(2)「高齢期におけるテンポ同期とテンポ維持のスキルに関する研究—拍の知覚能力との関係性に着目して—」北村はるか(心理学専攻博士後期課程)、推薦教員：水戸博道教授

(3)「青年期の芸能人における心理的特異性」木下縁(心理学科)、推薦教員：金沢義展教授

(4)「テレワーク下の特性と人間関係の質の関連」鹿野宏太(心理学専攻博士前期課程臨床心理学コース)、推薦教員：森本浩志教授

(5)「動線誘導における有効な矢印デザインの検討」雪澤沙都(心理学科)、推薦教員：金城光教授

研究奨励事業への申し込みに関する詳細な情報や、過去の報告要旨を白金心理学会HPに掲載しております。ご応募をお待ちしております。

白金心理学会HP内研究奨励事業

<https://psy.meijigakuin.ac.jp/shiropsy/research/>



研究奨励報告の様子

## 学部シンポジウム「With コロナ社会でのこころと学び」

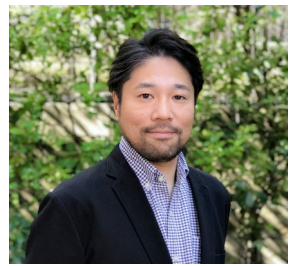
2020年の緊急事態宣言からわずか1年程度で、教育・就業環境のオンライン化が全国的に定着しました。このことは、コロナ禍を社会変革の一つの契機と考える良い事例です。本大会のシンポジウムでは、上述のような、コロナ禍の経験から得られた学生生活や個人の内面の“良い意味での変化”について、4名の学部生が登壇し、話題提供とディスカッションを行いました。心理学科からは白石菜々さん、豊原駿介さん、教育発達学科からは菊地滉大さん、牛尾一翔さんが登壇されました。

発表者からは感染対策による行動制限によって、勉強、友人関係、課外活動において様々な困難を経験したけれども、それはネガティブなものだけではなかったということが共通して報告されていました。たとえば、対面講義が実施できなかった時期に構築した同学年のSNS連絡網がコロナ収束化後も活用されている

川端 一光 先生(心理学科教授)

こと、Zoomを用いたオンライン講義が導入されたことにより通学時間と交通費が節約できたこと、対面講義とオンライン講義の両方の良さを活用した講義形態が有効であったこと、といったIT技術を前提としたより効率的な学生生活の可能性が報告されました。また、コロナ禍を通じて、前例のない状況へ適応する思考の柔軟性や、どうにもならないことについての受容、自由に対する考え方の変化といった、自己の内面的変化についても共通して報告されていました。

すべての発表でコロナ禍での経験が、よりよい学生生活への変化や、自身の成長のきっかけとして振り返られており、我々が既にWithコロナ社会からPostコロナ社会の過渡期で生活していることを実感させられました。



川端 一光 先生



シンポジウムの様子

パンデミック下では、「子どもの学びを止めない」をスローガンに、各学校や自治体、国が、それぞれで様々な取り組みを行ってきました。例えば文部科学省「子供の学び応援サイト」など、オンライン学習を支える動画をはじめとするコンテンツの充実が進められたことが挙げられます。これらの取り組みは、以前からある「教育の情報化」を進展させるとともに、これからの社会において求められる資質・能力の育成に対し、ICT活用は必須であるという意識を社会的に醸成することにつながっていきました。

また、育成することが求められる資質・能力とは何かを考える機会にもなり、従来の学習内容や学習の在り方も変わることが必要ではないかという考えも広がりました。社会の教育に対するニーズは、構造化されていない問題を解決する力や価値を創造する力などを含むもので

辻 宏子 先生(教育発達学科教授)

あり、いわゆる知識伝達型の一斉授業やこれまでの教科教育を通した育成には限界があることがすでに指摘されています。STEAM教育など教科横断的・総合的な学びの推進は、このようなニーズに応えるものであり、これまでも大切にしてきた、各教科のよさや必要性を子どもが理解することにもつながると考えられています。そのための学習の在り方として、文部科学省によって「個別最適な学び」と「協働的な学び」が示され、「指導の個別化」と「学習の個性化」を進めるとともに、多様な他者と協働して持続可能な社会を創造するために必要な力を育成に進もうとしています。

今回はWithコロナ社会での子どもの学びを中心に話しましたが、子どもの心に寄り添い、これからの社会の担い手を育てるための議論を、明治学院大学心理学科として進めていきたいと思えます。



辻 宏子 先生



シンポジウムの様子





金沢 吉展先生

私が専任教員として着任したのは2002年4月になりますが、明治学院大学との関わりは1994年に遡ります。当時はまだ文学部心理学科の時代で、「カウンセリング実習Ⅱ」という授業を非常勤講師として担当させていただきました。私の本務の都合から、隔週土曜日、1回2コマ続きで開講いたしました。教室は本館地下の情報センターにあるスタジオと、そこに隣接する小さな部屋をお借りいたしました。毎回、カウンセリングのロールプレイを行って録画し、プレイバックしながらディスカッションを行う授業でした。少人数の授業で熱心な学生たちが参加し、私にとっても印象深い授業でした。

2002年4月に文学部心理学科の専任教員として着任いたしました。それ以降の心理学科・心理学部での日々は、とにかく想像以上に忙しい日々の連続でした。2002年には心理学科が定員200名と大幅に増員となり、修士課程の心理学専攻も30名に増員すると共に教育・発達コース、心理臨床コースの2コース制が導入されました。2004年には心理学部として独立し、大学院も心理学研究科心理学専攻となり、心理臨床コースは臨床心理士養成のための第一種指定大学院の指定を受け、心理学部附属研究所が設置となりました。2007年には博士後期課程が設置となり、それに伴って、修士課程は博士前期課程の教育・発達心理学コースと臨床心理学コースに改組となりました。2009年4月に高輪校舎が新築され、心理臨床センターは、それまでの手狭なマンションから高輪校舎に移転いたしました。2010年には教育発達学科が新設、2014年には博士前期課程が3コース制となり、2016年に教育発達学専攻が修士課程として独立いたしました。

このように2002年以降、心理学科・心理学部は改組・拡充が続ききました。そのため、会議や書類作成のみならず、文部科学省に出かけるなど、思いもかけず忙しい日々の連続となりました。幾多の難局を乗り切ることができたのは、先生方や職員の皆様、ならびに大学執行部のご協力の賜物と感謝いたします。

忙しさは管理業務だけではなく、授業についても同様で、たくさん科目と多くの学生を担当することになりました。その中でも、ゼミの学生たちとは、飲み会や合宿などを通

じて関わることができ、良い思い出になっております。私自身が飲み会好きであることから、同じように飲み会好きの学生がいると、頻繁に飲み会に出かけ、大いに盛り上がった年もありました。中には、毎月飲み会を行った学年もありました。合宿では、もちろん研究発表も行いますが、やはり盛り上がるのは飲み会で、私も年甲斐もなく夜を更かして早朝まで学生たちと一緒に飲み明かすということが恒例でした。加えて、合宿の飲み会時には、他ではお見せすることのない私の隠し芸を披露することにしており、私にとっても楽しみの一つでした。新入生（3年生、大学院1年生）歓迎会、夏の暑気払い、忘年会、新年会、そして追い出しコンパ、これらは恒例の飲み会ですが、それに加えて（私がお願いしたことはありませんが）、いつの年からか、私の誕生会もゼミ生たちが開催してくれるようになり、これも大変嬉しい会でした。こうしたイベントだけではなく、普段のゼミ授業時に、私が学生たちから励まされたり慰められることもあり、ほっと一息つくこともありました。

私はいつもゼミ生たちに、「縦のつながり、横のつながり」と言っており、同期の間で良い関係を築くだけではなく、上級生・下級生間でも関係を築き支え合うことを大切にしております。そのため、飲み会や合宿は、3年生から大学院生まで全員で行うことを原則としてきました。学生たちの中には卒業・修了後も学年を越えて関係を持ち続けている人たちがおり、それを見ると、私が言ってきたことが無駄ではなかったように感じます。

こうした飲み会や合宿という、私にとって大切な行事が、この数年間はコロナ禍のために不可能になってしまったことは大変残念に思います。定年後にはゼミ合宿はできなくなっていますが、飲み会は続けることができれば大変嬉しく思います。

卒業生や修了生から、お子さんの誕生というおめでたいお知らせを頂戴することもあり、とても感慨深い思いをいたします。ゼミ生だった人が親となる、そのつながりを実感し、学生と関わったことの喜びを感じます。

明治学院大学に専任教員として奉職して22年になります。私自身は本学の卒業生ではありませんが、これも何かのご縁と 생각합니다。心理学科・心理学研究科の一層の発展をお祈りし、あわせて皆様のご健勝を祈念申し上げます。

## 新任教員のご紹介

### 杉岡 千宏 先生

2023年4月に教育発達学科に着任いたしました、杉岡千宏（すぎおかちひろ）です。専門は特別支援教育学で、特別支援教育、発達障害、知的障害、援助要請、などをテーマとして研究しています。自分だけではなかなかうまくいかないことは誰しもあると思います。そんな時、一つの手段として誰かといっしょに取り組むということが考えられます。その際の周りの人々の環境づくりや、困り事を自分から発信することを促進するアプローチ等様々なことに関心があります。みなさんと考えたり、実践したりする中で一緒に学びを深めていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



杉岡 千宏 先生

## 学生部会SC活動報告

### <心理学科SC>

今年度からSCとしての活動が対面での開催となり、直接対面をすることで新入生達はコミュニケーションが取りやすく、交流しやすい環境となりました。

新入生歓迎会としてフレッシューズ研修を行いました。新3年生が中心となり、大学生活のガイダンスや、交流を深めるためのレクリエーションを行いました。

昨年7月に実施した相談会も対面での開催となり、一年生のサポートといった目的を果たせた実感しております。

参加者からは、不安を解消できたといった嬉しい感想をいただくことができました。

今後心理学科SCは新入生・在学生在が充実した学生生活を送れるように支援を行っていきます。

### <教育発達学科SC>

教育発達学科SCでは、新入生の交流を目的としたイベントの企画・運営を中心に行っております。今年度は春学期・秋学期に開催した交流会共に規制なしの対面で行うことができました。また、今年度は例年より早い段階で1年生のSC加入が決定したので、SCとしてより厚い層で活動できたことは、今年度の教育発達学科SCの強みです。

特に我々22生は仲が良く、幹部を中心に同じ方向へ向かって進むことができる集団です。その集団の代表としての自覚を持ち、全員が充実した時間を過ごすことのできるよう精進してまいります。日頃から我々の活動へのサポートに感謝いたします。今後とも、よろしくお願いいたします。

### <大学院SC>

大学院SCは2023年11月10日（金）に「Let's Talk To 大学院生！」を開催しました。心理学研究科へ進学を検討する、心理学部生の疑問や悩みを臨床心理学コースの大学院生が答え、交流するイベントです。昨年度に引き継ぎ、オンラインでの開催でしたが、20人以上の学部生にご参加いただきました。交流会の前半は、事前に募集した質問から、いくつか取り上げ全体にお話し、後半は、希望者のみ個別相談を行いました。「1人の意見ではなくて、何人かの院生の意見や過ごし方がわかり参考になった」、「個別に質問する時間が設けられ、悩みを解消できた」というような感想が集まりました。今後ともご協力のほど、よろしくお願いいたします。



今年度SCの集合写真

### SC活動一覧

4月	・フレッシューズ研修
6月	・大会運営補佐
7月	・教育発達学科:春学期新入生交流会 ・心理学科:相談会
11月	・大学院:「Let's Talk To 大学院生！」
12月	・教育発達学科:秋学期新入生交流会

## 住所変更フォームが変わりました

「白金心理学会」は卒業生と在学生、そして教職員の交流と教育、研鑽のためのネットワークです。今後の大会のお知らせなどをお届けするため、卒業時から現住所が変わった、もしくは、ご実家のご住所が変わったという卒業生のみなさまは、事務局まで現在のご住所をお知らせください。

下記のURL、もしくは右記のQRコードからご連絡をお願いいたします。(別サイトタブが開きます。)



白金心理学会登録住所変更ご連絡用フォーム

<https://forms.office.com/r/624inZ79JH>

## 事務局よりお知らせ

### ○次回大会について

学部20周年および心理臨床センター20周年記念行事と併せて、2024年10月27日（日）の開催を予定しております。

### ○教員の動向

2023年度で退職される先生

金沢吉展先生

2024年度研究サバティカルの先生（2024年度は出校されませんので、ご注意ください。）

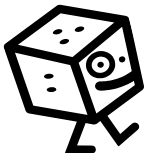
伊藤拓先生、田中知恵先生、宮本聡介先生

### ○白金心理学会ホームページ

白金心理学会事務局からのお知らせ、白金心理学会が主催するイベントのお知らせ（在学生、卒業生向け）、広報紙「さいころ」のバックナンバーなどを掲載しています。また、連絡先の変更や大会の申込みなどもホームページから行うことができます。スマートフォンからも閲覧できますので、是非一度ご覧ください。

### ○卒業後連絡の取りやすいメールアドレスのご登録をお願いします！

白金心理学会HPより変更可能です。大会や学会情報がニュースレターでお知らせできるよう、ただいま準備しておりますので、ぜひご協力をお願いします。



発行：  
明治学院大学心理学部  
白金心理学会 事務局

〒108-0074  
東京都港区白金台1-2-37  
明治学院大学  
心理学部共同研究室内

TEL&FAX:

03-5421-5814

問い合わせ用E-mail:

[shinro@psy.meijigakuin.ac.jp](mailto:shinro@psy.meijigakuin.ac.jp)

白金心理学会ホームページ

URL:<https://>

[psy.meijigakuin.ac.jp/shiropsy/](https://psy.meijigakuin.ac.jp/shiropsy/)

